

博多～尼崎～京都、中世の港のにぎわい

1 開催趣旨

中世の尼崎は、全国から集まる物資を京都などの大消費地に送る中継地として栄えました。しかし、尼崎に大きな流通拠点があったことは、あまり知られていません。尼崎では奈良時代以降、海岸線の南進に伴い神崎川河口部に長洲浜、大物浜が形成され、淀川水系で都とつながった諸港湾が誕生しました。とりわけ、平安時代後期に港湾として発達した「大物」は平氏政権全盛期以降、中国(宋)との貿易、国内の年貢などの物資流通の一大中継地となり、やがてその役割は平安時代末期に南部に形成された砂州が陸地化した尼崎に引き継がれていったと考えられています。今回の特別展では、中国、博多と京都を結ぶ日宋貿易とともに、瀬戸内海に点在する港とのつながりから西日本の物流を支えた港湾機能について、考古遺物を中心に考察し、大消費地に最も近い地の利を活かし、交通の要衝として発達を遂げてきた尼崎を紹介します。

また、中世の尼崎も現在の尼崎と同じく交通の要衝として全国各地とつながっていたことがわかる資料などをわかりやすく展示し、尼崎には文化財が豊富に現存し、長い歴史を有するまちであることを広く紹介します。

2 開催期間

令和6年10月1日(火)から令和6年11月30日(土)まで
いずれも開館時間は午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

3 休館日

月曜日(ただし祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)

4 主催

尼崎市教育委員会

5 会場

尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室

6 観覧料金

無 料

7 関連事業

(1) 講演会

特別展会期中に、尼崎の文化財について造詣の深い専門家による記念講演会を開催する。

(2) ワークショップ

れきし体験ボランティアによる名月姫を題材にした人形劇を開催する。

8 主な展示資料(予定)



唐土器(丁焼)



・ 尼崎(大物遺跡)



・ 京都(平安京)



・ 神戸市(二葉町遺跡)



・ 博多(博多遺跡群)